

日本住を快適空間!

ダンネット通信

2010.Spring vol.68

発行：株式会社ダンネット 〒070-8045 北海道旭川市忠和5条4丁目9-17 TEL(0166)61-9151・FAX(0166)61-2044

今月のトピックス

今年度も相次ぐ住宅関連の法制度変更

ここ数年、長期優良住宅認定制度の創設や瑕疵保険の義務化など住宅に関連する法制度は目まぐるしく変化していますが、今年度も新たな制度の創設や現行法の改正など、すでに行われたものもあれば、これから行われるものもあります。今回はこれら法制度関連の動きについてまとめてみました。

リフォームでも瑕疵保険始まる

新年度からの法制度の変更点でまず覚えておきたいのが、省エネ法改正によって300㎡以上2000㎡未満の住宅・建築物にも新築・増改築時の省エネ措置届出が義務付けられたこと。

これまでは床面積2000㎡以上の住宅・建築物のみ義務づけられていましたが、300㎡となると大きな戸建て物件や4戸1棟の木造アパートなども対象となる場合があるので注意が必要です。

そして新たにリフォーム瑕疵保険が始まりました。この保険はリフォーム業者が契約者・被保険者となり、リフォーム工事で瑕疵があった場合、その補修費用が保険法人から業者に支払われます。業者倒産などのケースでは、住宅所有者が保険法人に直接保険金を請求可能。加入は任意ですが、国交省では保険に加入している業者のリストを公開し、ユーザーに業者を選択する際の参考にしてもらう考え。4月末現在ですでに㈱日本住宅保証検査機構が取り扱いを開始しており、新築の瑕疵保険を扱う他の保険法人も順次始める予定です。

このほか、1%の金利優遇で申し込みが急増し

ている住宅金融支援機構の長期固定金利ローン・フラット35Sでは、融資対象となる諸費用の対象拡大がこの4月から行われています。

6月から確認申請の負担が軽減

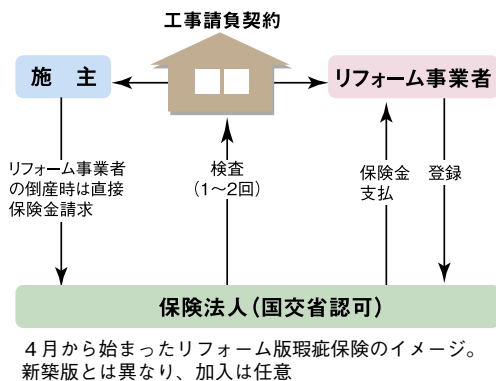
さらに6月からは、建築確認手続き等の改善と長期優良住宅・住宅性能表示の認定申請図書簡素化が行われます。

このうち建築確認手続き等の改善は、審査期間の迅速化・申請図書の簡素化・厳罰化の3つがポイント。主に大規模建築物を想定した改善ですが、新築戸建住宅に関わる部分もあります。

例えば申請図書に間違いなどがあった場合、申請者が記載しようとしたことが推測できる範囲の間違いなどであれば、再申請ではなく修正で済

むようになりますし、大臣認定の建材・構造などについてはデータベースを構築し、確認審査側が認定状況を容易に確認できる環境を整備することで、申請時の大臣認定書添付が省略できるようになります。

なお、4号物件の確認特例見直しについて国交省では、当分の間、継続すると表明しています。



特集

進化した木造用透湿外断熱パネル『DAN壁』を本格販売

新築はもちろん、既存住宅でも断熱性能向上による省エネの推進が求められている中、(株)ダンネツでは従来から市販してきた湿式仕上げ用透湿外断熱パネルをバージョンアップし、『DAN壁』（だんぺき）という商品名で本格販売を開始。より快適な居住環境と美しい外観デザインを実現する商品として、積極的に普及を進めていきます。

従来製品から材料や仕様を変更・改良

DAN壁は、これまで販売していた透湿外断熱パネル・そとだんパネルと同じく、あらかじめ湿式仕上げ用の補強下地層が工場施工されているEPS（ビーズ法ポリスチレンフォーム）パネル。①断熱材のEPSから仕上げ材のトップコートまですべての材料に透湿性があるため、通気層を省略可能②トップコートの塗膜に柔軟性を持たせることで優れた耐クラック性を発揮③豊富なカラーとコテなどを使った多彩な意匠を表現可能といった従来製品の特徴はそのままに、材料や仕様を一部変更・改良し、名称も一新しました。

従来製品との違いは、①トップコートなどアクリル樹脂材料に野原産業(株)製の透湿外断熱工法・

パッシブウォールの材料を採用②パネルジョイント部分の断熱欠損とあばれ・不陸を防止するため、新たにパネル上下にあいじゃくり加工を実施③万が一、パネル裏面に雨水等が浸入しても下に流れ落ちるよう、パネル裏面の上部と左右のコーナー部分を面取りし、パネルジョイント部分に排水層ができるように工夫など。

クラックや汚れに強い新トップコート

トップコートの材料変更については、欧米メーカーが先行している湿式外断熱工法分野で、国内メーカーである野原産業との協力関係を強化することにより、国内の市場ニーズに迅速に対応できる製品開発が可能になると判断したため。

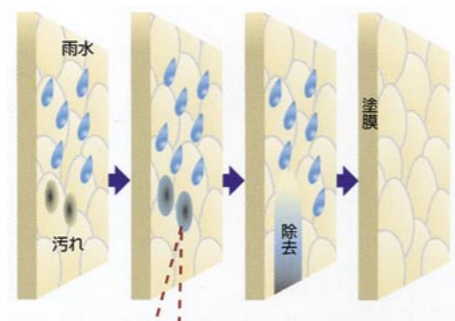
新採用のトップコートは、優れた耐クラック性



『DAN壁』を施工した外壁のカットサンプル



コテ押しやくし引き仕上げなど多彩な湿式仕上げを提案可能



高親水性により外壁の汚れと雨水が一体化
高親水性なので付着した汚れは雨水とともに流れ落ちる

のほか、無機系顔料の使用により色落ちが極めて少なく、高親水性なので付着した汚れも雨水とともに流れ落ちるなどの特徴も持っています。

住んだまま断熱・外装改修が可能

施工は新築の場合、軸組屋外側にダイライト9mmと透湿防水シートを貼り、窓回りに防水用のシーリングテープを取り付けてからパネルをビスと専用ワッシャーで軸組材に固定。出隅や水切部分はPVCアングル材で押さえ、パネルジョイント部分はグラスファイバーメッシュをベースコートに伏せ込んで補強。ワッシャー部分もベースコートで処理し、仕上げにトップコートを2度塗りします。

木造総2階建てのシンプルな住宅であれば、パネル取り付けから仕上げまで施工面積180㎡程度として、パネルの取り付けに大工3人で2日、パネルジョイントなどの下地処理に左官職人2人で2日、仕上げに同5人で1日と、養生なども含め約1週間で終わる計算です。

リフォームの場合は、既存外装材を撤去せず、オーナーが住んだまま施工することも容易。既存外装材の上部と下部を切り、現場発泡ウレタンで通気層上下を塞いでから既存外装材表面に455



今年2月に札幌で行われた製品発表会では、湿式仕上げによるテクチャーのサンプルや専用の施工部材などを展示

mmピッチで60φの穴を開け、その上からパネルをビス・ワッシャーで固定します。後の手順は新築と同様。

基本サイズは断熱厚50mmの3×6尺で、熱伝導率は0.038Wと、省エネ基準の断熱材区分でCランクに該当。クラックやはがれなどに対し新築で10年、リフォームで5年の保証も行います。DAN壁は責任施工と部材販売の両方で提供し、責任施工の場合、価格はエンドユーザー渡しで1万2,000円程度/㎡になると見込まれます。

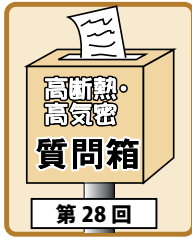
リフォームで採用するメリット大きい

ダンネツ外断熱事業部では「新築であれば、北海道では軸間充填の100mm断熱に50mmの付加断熱が行われることで次世代省エネ基準をクリアします。リフォームでは断熱改修によるエコポイントや減税措置を考慮すると、外装の化粧直しまで含め300万～400万円の工事で実質50万円程度が戻ってくる計算。そうすると自宅のリフォームを検討しているエンドユーザーは大いに興味を示すのではないかと考えています」と話しています。

問い合わせは同社外断熱事業部（☎011-875-3969・FAX011-871-3502）へ。



既存の住宅全体を外側から断熱することで、オーナーが住んだまま付加断熱と外装の化粧直しができる（写真は従来製品による施工です）



基準法を守るだけでは健康被害を防げない？

Q…床の改修工事を行った札幌の児童会館で、トルエンが指針値の26倍にもなったというニュースを見ました。原因

となった接着剤は建築基準法のF☆☆☆☆適合でJIS認定の製品だったそうですが、それでもこんなことが起こるのでしょうか？

A…この事件は、床をじゅうたんからコルク床に改修する工事でトルエンを含む接着剤を使った結果、職員や児童など100名以上が体調不良を訴え、マスコミにも大きく取り上げられました。

使われた接着剤は建築基準法のF☆☆☆☆に適合しているJIS製品ですが、もともと建築基準法で規制している化学物質はホルムアルデヒドとクロロピリホスのみ。F☆☆☆☆はホルムアルデヒドの放散量が一定値以下であることを示しているだけで、トルエンなど他の化学物質については考慮されていません。ですからF☆☆☆☆の製品やJISの認定製品だからといって必ずしも安全とは限りません。シックハウスを引き起こす化学物質は色々だからです。



問題となった児童会館の室内。現在はタイルカーペットに改修され、化学物質のおいもない

もっとも今回は、シックハウスを防ぐうえで重要な、適切な建材等の選択と施工管理を怠ったことが最大の原因。札幌市の公共建築物シックハウス対策指針では、新築や改修などを行った時、①建材等は受け入れ検査を行い、適性かつ安全であることを確認する②ホルムアルデヒドやトルエンなどVOC6物質の濃度測定を行う一などを定めていましたが、市の担当者の勘違いや解釈の違いなどでいずれも行われていなかったのです。

きちんと使用建材をチェックしていれば防ぐことができた可能性は高いですし、室内VOC測定をしていれば多く人が健康を害することもなかったでしょう。

●編集●後●記●

▲北海道は例年、ゴールデンウィークに桜が見頃となりますが、今年は4月末になっても気温が上がらず、開花が遅れました。こちらは春にならないと住宅市場も動かないだけに、桜の開花は早ければ早いほどいいのですが…。(佐野)

▲事業仕分け第2弾では、住宅金融支援機構やベタリビングなど、住宅業界に馴染みのある法人も対象になりました。ムダな事業を切るのはいいいのですが、勢い余って必要な事業まで切らないよう、お願いしたいものです。(水越)



株式会社ダンネツ

ホームページURL <http://www.dan-netSU.co.jp/>
E-mailアドレス info@dan-netSU.co.jp

「快適な住まいづくり」はお任せ下さい！

●フローイング工事各種 ●外断熱工事 ●気密工事
●ウレタン吹付工事 ●断熱建材製造販売 ●住宅性能診断

■本社	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17	TEL(0166)61-9151 FAX(0166)61-2044
■旭川第一工場	〒071-1248 上川郡鷹栖町8線西2号	TEL(0166)87-4442 FAX(0166)87-4888
■旭川第二工場	〒070-0014 旭川市新星町514番地1	TEL(0166)21-7080 FAX(0166)21-7080
■札幌支店	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3966 FAX(011)875-3971
■外断熱事業部	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3969 FAX(011)871-3502
■ウレタン事業部札幌事務所	〒003-0869 札幌市白石区川下2127番地4	TEL(011)875-3972 FAX(011)875-3974
■旭川支店	〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目9-17	TEL(0166)62-7575 FAX(0166)61-1715
■帯広支店	〒080-2460 帯広市西20条北2丁目27-10	TEL(0155)41-4101 FAX(0155)41-4105
■釧路支店	〒088-0621 釧路郡釧路町桂木5丁目15	TEL(0154)36-1790 FAX(0154)36-1844
■北見支店	〒099-0878 北見市東相内町174番地16	TEL(0157)36-3557 FAX(0157)36-3433
■北関東支店	〒362-0047 埼玉県上尾市今泉1丁目27-4	TEL(048)783-1666 FAX(048)783-1667
■千葉支店	〒262-0011 千葉県千葉市花見川区三角町16番2	TEL(043)258-4065 FAX(043)258-4025
■宇都宮支店	〒321-0932 栃木県宇都宮市平松本町362-6	TEL(028)636-1266 FAX(028)636-2675
■平塚支店	〒254-0018 神奈川県平塚市東真土4丁目2-69	TEL(0463)54-6484 FAX(0463)54-2430
■水戸支店	〒310-0841 茨城県水戸市酒門町字西割4312-3	TEL(029)248-6761 FAX(029)248-6762
■ウレタン事業部東京支店	〒351-0002 埼玉県朝霞市下内間木301番地	TEL(048)458-1455 FAX(048)456-3877
■ダンネツ信州	〒399-0033 長野県松本市大字笹賀5130-1	TEL(0263)26-0811 FAX(0263)26-1016